

賃貸でも入居者交流

入居者同士の交流の場を設ける賃貸マンションが、相次ぎ登場している。管理会社が交流イベントを催したり、誰もが利用できる共用スペースを設けたりと手法は様々。分譲マンションと比べれば付き合いが少なくなりがちな賃貸マンションでも、交流を意識する人が増えているようだ。

マンション

神奈川県厚木市にある賃貸の「オパールマンション」(10階建て、築5年)には約100世帯が入居する。今月4日夜、市内の花火大会をマンション屋上から観賞するイベントが開かれた。参加したのは入居者ら約100人。ビールやジュースを飲み、焼き鳥を食べながら交流を楽しんだ。企画したのは、マンションを管理する不動産会社「コンビニ賃貸」。社長の小原秀也さんは、「入居者同士、互いに顔がわかっていけばトラブル



管理会社が催し * 共用スペース付きも

「オパールマンション」の屋上で開かれた交流会。入居者同士で話が弾む(神奈川県厚木市)



ルも減ります」と話す。

賃貸マンションは分譲マンションと違って管理組合がなく、住民同士が集まる機会がほとんどない。それを補うのがこの催しの趣旨だ。

会場では「何階にお住まいですか」といったあいさつをきっかけに、会話が広がった。参加した男性会社員(35)は「帰宅が遅く、普段は部屋に

帰って寝るだけ。どんな人たちが住んでいるのかわかって安心しました」と話す。交流企画の内容は様々だ。今春完成したばかりの、東京都北区の賃貸マンション「マストライフ古河庭園」(1・2・9世帯)では、屋上庭園でサツマイモの苗を植えるイベントを実施した。今秋には一緒に収穫し、つきあいを深めて

いくという。

交流しやすいよう、建物内にあらかじめ共用スペースを設けた賃貸マンションもある。不動産会社「グローバルエージェンツ」(東京)は、「ソーシャルアパートメント」と名付けた賃貸マンションを、首都圏を中心に16棟運営している。入居者の部屋とは別に、テレビや大型キッチンなどのある共用スペースも設けている。有志が声を掛け合ってパーティーを企画することも多いという。同社では「新しい出会いで刺激が生まれると、20〜30歳代に人気」という。リクルート(東京)の住宅サイト「SUUMO(スーモ)」編集長、池本洋一さんは、「空室率が高まる中、賃貸住宅の魅力づくりの一環として、住民の交流に注目が集まっている面がある」と指摘する。「住民側も東日本大震災以降、コミュニティ作りへの関心が高まっている。賃貸マンション選びで、住民同士の交流の仕掛けがあるかどうかを条件に入れてもいいと思います」賃貸マンションでのつきあ



入居者同士が集まることができる「ソーシャルアパートメント」の共用スペース(グローバルエージェンツ提供)

い方のコツについて、NPO法人「マンション管理支援協議会」(東京)事務局長の川上美知代さんは「まずは、建物内で人に会ったらあいさつする。ごく基本的なことだが、これを必ず行っただけでも、入居者同士の関係を深められます」とアドバイスする。マンション内で消防訓練やイベントなどが行われていれば、積極的に参加する。また、顔見知りの住民がきたら、避難場所など防災に関する情報交換をしてみてもいい。「きっかけを見つけて、お互い顔がわかる関係になれるよう、努めてみてください」と話している。

くさく